



武道自石英 前篇 三

へ 13
3370
3



武道白石英卷之三

折々^{かり} 處々^い 傳ふ^{あや} 事^{こと}
 并^ひ 古^{ふる} 人^{ひと} 試^し 今^{いま} 事^{こと}

[illegible]

大正十年八月廿九
本大學出版部

列うれくやすくし休やすむとし能よくしにき資きを
骨ほねのし水みづをし男おとこのし心こころをしいいよよ力ちから
祇みこをしいいくくをし白しろくくせせ有あるる男おとこをし
リりをし自みづからら振ふくくをしああるる心こころをし
ふふくくをし何なんととももししててはは振ふくくをし
おおちち中なかつにに振ふくくをし奥おくにによりより上うへをし
一ひとのし心こころをしああるる心こころをし幸さいふふくくつつわわく
ふふれれははああるる心こころをし一ひとのし心こころをしとと

ふふままをし直ちかままをしああるる心こころをし秋あきもも
ふふままをしああるる心こころをしああるる心こころをしとと
ふふ秋あきもも或ある色いろをし修しゆりりのし心こころをしとと
ああるる心こころをしああるる心こころをしああるる心こころをしとと
道みちをしああるる心こころをしああるる心こころをしとと
ああるる心こころをしああるる心こころをしああるる心こころをしとと
町まちのし心こころをしああるる心こころをしああるる心こころをしとと
ふふれれははああるる心こころをしああるる心こころをしとと

ゆきふの村に虚を信する人
あつてたふにゆきふのどくも
信と政め合ふにゆきふの虚を信
き且今そこの先洋状小ぬ庵も
門下はあつたりゆきふのどくも
おひぬ信をまへ一月も門風流を
中もの之用に門ゆふ常国とす者
そ信よあまそくまはさ合いとあろ

そ信の或ぬふまそくしゆとゆき
信もあ合ふとくゆきふの
まづはまそくしゆとゆきふの
あまそくしゆとゆきふの
ゆきふのしゆとゆきふの
入はゆきふのしゆとゆきふの
ゆきふのしゆとゆきふの
信とゆきふのしゆとゆきふの

東の徳の物信ひふふあかん
 おとふふやふ中きふふあかん
 五ふふ年月の物全量逃く
 とふふやふふあかん
 近中ハ物くそれやうふふ
 金中のふ何連がふふふふ
 あふふふ人きふふふふふ
 ふふふふふふふふふふ

社田に於て試金糸を賣る方なりとの
 事なりとありし水とてその性質は
 水に似たりと云ふ事自明なりと云ふ
 後及ばし水自明なりと云ふ事
 其の性質の如き者とは是なり
 後日めたりふりし水とて下なる
 水とて其の性質は水に似たりと
 云ふ事自明なりと云ふ事

三人おき社目ふあうち小社目
ひろく祇小社目ふあうち小社目
顔とふ小社目ふあうち小社目
うさ社目ふあうち小社目
うさ社目ふあうち小社目
うさ社目ふあうち小社目
うさ社目ふあうち小社目
うさ社目ふあうち小社目
うさ社目ふあうち小社目
うさ社目ふあうち小社目

是もあそびとていふげたふ
きひいてあそびとていふげたふ
活な活なとていふげたふ
秘術とていふげたふ
入人と虚実とていふげたふ
おちとていふげたふ
海の小はあそびとていふげたふ
うてあそびとていふげたふ

かゝるものゝ恨とて人々を
あへて中へかけ入る伴の技とて
名と押へてある之は皆く此の如く
あるものなりといふは誤り
つゝ是も此の如き誤りは無
傷なりと云ふはちまたの
さういふを先刻よりおぼ
ろの如く誤りなりと感ぜらる

あゝさういふ候は後へは
部へ下りなれ何れも
さういふことと云ふは
いふもさういふ部へ
おちるなりと云ふは
め勝負はそれなり
花よりむすの如くは
新合より誤りなりと云ふは

奇人として世を驚かすに大なる石の
どく物だとなおぞほろろほろろの
笑とあはれりとさふき下り物しえ
て何とほく—あんなおもしろい
事とつとくはなれど運例の修り
者となすは—随うと云くはめ
りさるる—まゝ—いふなとせま
ふ、拙者も、強はち、奥は、

て、あつた、は、あつた、や、あつた、
く、下、下、下、下、下、下、下、
実、是、は、く、痛、入、ち、作、ち、作、
多、列、は、名、て、う、ち、あ、ち、あ、
み、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
早、は、は、は、は、は、は、は、
の、修、り、は、な、二、三、人、父、母、の、返、後、
あ、ち、は、は、は、は、は、は、は、

丁とて深く感へたに
我くハ未熟の身は中一四日
三つとくは平せめて八十日
消るは仕ゆ影と水なとてく
あ人ぐるるをうけるが白
折るは仕ゆ影と水なとてく
すもや強きをうけるが白
さうに仕ゆ影と水なとてく

折るは仕ゆ影と水なとてく
まう折るは仕ゆ影と水なとてく
あ人ぐるるをうけるが白
折るは仕ゆ影と水なとてく
すもや強きをうけるが白
さうに仕ゆ影と水なとてく

此の通りし一毎考之に於て
 一ヶ月も少くも一ヶ月も
 此の通りし一毎考之に於て
 一ヶ月も少くも一ヶ月も
 此の通りし一毎考之に於て
 一ヶ月も少くも一ヶ月も

[illegible]

あゝと云く^{たづ}つと^りあ^らるふ^ま乃^はび^たる
うも^ゆは^はつ^る風^ふを^はゆ^をと^くし
あひ^くは^はる^る人^{ひと}と^ちあ^はな
ま^の人^のは^はは^はる^る折^をと^くを^はな
そ^のに^はは^はる^る折^をと^くを^はな
折^をと^くを^はな^の内^{うち}波^はの^はは^はる^るを^はな
卒^そ尔^にと^くを^はな^の奥^{おく}列^{れつ}の^はは^はる^るを^はな
む^のや^はと^くを^はな^のは^はる^るを^はな

あゝと云く^{たづ}つと^りあ^らるふ^ま乃^はび^たる
うも^ゆは^はつ^る風^ふを^はゆ^をと^くし
あひ^くは^はる^る人^{ひと}と^ちあ^はな
ま^の人^のは^はは^はる^る折^をと^くを^はな
そ^のに^はは^はる^る折^をと^くを^はな
折^をと^くを^はな^の内^{うち}波^はの^はは^はる^るを^はな
卒^そ尔^にと^くを^はな^の奥^{おく}列^{れつ}の^はは^はる^るを^はな
む^のや^はと^くを^はな^のは^はる^るを^はな

金づてたる山寺のふりへて
人申のさうれいまを知らる浪人
ともくまのねぢはなふむほる
目はおえせんとあつくふやそを
まぢくおの遠くのとてきんてめ
せんとうはくを折ちり押止我
等とほせよ必ぞきまひし
ほるの衣とるひやうと改とに

例の技とほるまもほるま
浪人さうねんは金力ある
あちいねさうとくある金
力の多あまも家といふと
おちうとくとおちあひ何事と
ううまうあははし金限の
えんえんえんえんえんえん

山寺やまのてらなくくさるあさこしよし
とくをぢく遠く争ひつゝ月
あつたえせ人と此方の者を移し
印しめるとおちるおしきひは
逆さるる命こそおぼしき人
たんと金あると老らるゝあ
けりし一泊をさるゝけりし
川掬ゆる件いづれの取らるゝ至るもの

事あるぞ人といふあしきし
越トヤうおぼるるをこそ
皆く大はるかに目と目とえ合あひあひし
糸いとを打しとく一云とめを
ほろとちり果る折ちりし
物とにもの川掬とおまじり
いそあつたふしとくをさる
るものもとくはるる

あゝうちよとつとねく誤入
仕合うゝまゝもなむを後
うゑトさるべし一人迄二人
篇の逢ふとくもくもく
わゝらゝゝあるは是く似も
いつともさ人さすく迎
沈志めさせ大第ひして
此中とぬけへ中ち似も

入は人今もで我く私ある
たう飛うふのく似も
さふゝと逢ひしと大面ひ
傍も大は悦び新く遺
のれたりとて悦ぶ
うゑみく新の逢ふ
みきりも

是よりけは傍も大か

の者いひけるいふ名押込
とくのもも也傍もそ人致し
ふまゐる世の風説幸力の
あるうしそきしとれ

下世に如く此中よりぞ

きつりし事

折ちるハキとあつ少後と修く

きつりし事なうし一と一とて
私くし世はあつゆもきりし
一希と求めり水も一人縁ハ希と
かきとつるしとくきし
思ひふきりし修りしとくきし
りし希と人しりふふ希の
其ふもきりしとくきし
いふきりし希の類ふ希の類ふ

是^{これ}一^{いっ}そ^その^の村^{むら}と^とさ^さう^う一^{いっ}を^を申^{まを}
家^{いえ}と^と海^{うみ}の^の間^まに^にた^たる^る一^{いっ}斗^とせん^{せん}
向^{むか}ひ^ひ敵^{てき}の^の力^{ちから}に^にま^まく^くの^の武^ぶ運^{うん}と^とい^いの^の
お^お敵^{てき}の^の力^{ちから}に^にま^まく^くの^の夜^よの^のま^まは^は
既^{すで}に^に松^{しょう}風^{ふう}と^と沸^わく^くと^とん^んと^と
又^{また}い^いき^きる^る猿^{さる}の^のつ^つら^らな^なう^うつ^つと^と
賊^{ぞく}の^のま^まを^をえ^えて^て一^{いっ}あ^あな^なる^る所^{ところ}の^のま^まう^う
人^{ひと}の^のあ^ある^るま^まを^をえ^えて^て一^{いっ}あ^あな^なる^る所^{ところ}の^のま^まう^う

下^{した}う^うび^び多^た高^{たか}の^のち^ちを^をえ^えて^て一^{いっ}あ^あな^なる^る所^{ところ}の^のま^まう^う
お^お敵^{てき}の^の力^{ちから}に^にま^まく^くの^の夜^よの^のま^まは^は
既^{すで}に^に松^{しょう}風^{ふう}と^と沸^わく^くと^とん^んと^と
又^{また}い^いき^きる^る猿^{さる}の^のつ^つら^らな^なう^うつ^つと^と
賊^{ぞく}の^のま^まを^をえ^えて^て一^{いっ}あ^あな^なる^る所^{ところ}の^のま^まう^う
人^{ひと}の^のあ^ある^るま^まを^をえ^えて^て一^{いっ}あ^あな^なる^る所^{ところ}の^のま^まう^う

さんとおみよは女めそくは
 母そくをきびしくするは
 其い文は一命は水門あくえ
 ま子あししう(人)の中れある
 うそ許しきよ而後さるる
 女もきよきよいづる
 中しそ果実の整りと
 どのまじりそは女は別と

生たる甲斐なくを都のどく
 其情と世の何卒はるぐ
 されどいふ世情くみそそふはる
 心細くそ泣きたり我かたうけ
 のけり者なりぞあるうみのこ
 言をいひつるべしだま帰るしそ
 けさんどくま也あ人の心とく
 弦事ハ我はにせむといふくたあ

の君もしめをよいゆやまゝあるが
まふ彦平はてはてはてのころに
逢ふ面よりとほるをきくともお
はははとてあつとをきくは
おろつては月ひるのとさきに親
のまふもまふはははとてあつて
おろひははははははははははは
おろひははははははははははは
おろひははははははははははは

親のまふもまふはははとてあつて
おろひははははははははははは
おろひははははははははははは
おろひははははははははははは
おろひははははははははははは
おろひははははははははははは
おろひははははははははははは
おろひははははははははははは

平生こころありと悟みけり
るそいそまゝあつてあ
トせほをやさきまゐる人
いたまへとせ帯をききと
一ちあるかまひ性あそ
なるまゝまゝの揚り地と
男の親のまゝも田地
家へりぬい女のまゝの
親のまゝも

田地かゝるけり
風情をえぬびちなほ
入家のほほへり
一様まゝの縁あそ
なるまゝのちね
若くは
下等なひさひる
乃を親のまゝも

道 りむろり 中 かく 送 りむろり う りむろり り りむろり り りむろり 着 りむろり き りむろり ま りむろり ぬ りむろり る りむろり

武道白名葉巻のこぼ

目錄

本屋大攻見料
 貧生計説見料攻
 貧生夜走至信友宅
 本屋追貧生落金予
 本屋後悔休商賣

